伊勢物語の研究〈資料篇〉

片桐洋一著

明治書院

著者略歴
片桐洋一（かたぎりよういち）。昭和六年九月五日生。
昭和三十四年　京都大学大学院博士課程単位所得。
現在　大阪女子大学学長。
専攻　平安時代文学史。
著書　「拾遺和歌集の研究　校本篇・索引篇」（大学堂書店）、「中世古今集注釈書解題　一～四」（赤尾照文堂）、「伊勢物語・大和物語」（鑑賞日本古典文学・角川書店）、「竹取物語」（日本古典文学全集・小学館）、「竹取物語・伊勢物語」（図説日本の古典・集英社）、「古今和歌集」（全対訳日本古典新書・創英社）、「小野小町追跡」（笠間書院）、その他

伊勢物語の研究〔資料篇〕
定価　一〇〇九四円（本体九八〇〇円）
昭和四十四年一月三十日　初版発行
平成　三　年五月二十日　五版発行
著者　片桐洋一
発行者　株式会社　明治書院
代表者　三樹彰
印刷者　田中忠
発行所　株式会社　明治書院
東京都千代田区神田錦町一の一六
郵便番号　一〇一番
電話〇三（三二九二）三七四一（代）
振替口座　東京　三－四九九一番
©一九六九年　片桐洋一

ISBN4—625—41014—2　大日本法令印刷株式会社・星共社製本

目次

成立と伝流に関する資料

一、綜覧在原業平集……五
(一)業平集諸本和歌対照表……七
(二)陽明文庫本業平集――歌仙家集本系統――……一四
(三)神宮文庫本在原業平朝臣集――群書類従本系統――……一八
(四)尊経閣文庫本在中将集……二五
(五)宮内庁書陵部蔵異本業平集――雅平本その他――……三六
二、異本伊勢物語絵巻……五三

享受と研究に関する資料

一、伊勢源氏十二番女合……七一
二、伝為氏筆和歌知顕集――宮内庁書陵部本系――……九五

三、島原文庫本和歌知顕集――続群書類従本系――……一九七
四、冷泉家流伊勢物語抄……二八七
五、彰考館文庫本伊勢物語抄……四〇一
六、伊勢物語髄脳――林崎文庫本――……四四五
七、伊勢物語難義注……四六一
八、伊勢物語口決……四八九
九、伊勢物語七箇秘伝……四九七
一〇、伊勢物語愚見抄……五〇三
一一、伊勢物語肖聞抄……五八九
一二、伊勢物語宗長聞書……六五一
一三、三条西家流伊勢物語系図……七一一
一四、伊勢物語闕疑抄……七二五
解題……八六九

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

成立と伝流に関する資料

一、綜覧在原業平集

凡　例

一、本綜覧は「在原業平集」の伝本四系統、すなわち、

①歌仙家集本系統（陽明文庫所蔵本）

②群書類従本系統（神宮文庫所蔵本）

③在中将集（尊経閣文庫所蔵本）

④宮内庁書陵部所蔵異本業平集

を、忠実に活字に翻刻し、冒頭に、これら四系統の「業平集」におさめられた和歌の首句索引を兼ねた「諸本和歌対照表」を付したものである。

二、翻刻にあたっては、原本のままを原則とし、漢字の特殊な使用法や仮名遣の特異な用法も改めなかったが、異体の漢字や仮名は印刷の都合上通行体に改め、かつ読解の便をはかって、句読点と清濁の表記を加えた。

三、歌頭や行間の書入注や合点などの符号も原則としてそのままにした。

(一) 業平集諸本和歌対照表

排列は歴史的仮名遣による五十音順

和歌初二句	仙本系	類本系	在中将集	書陵部本	伊勢物語大和物語	古今集後撰集	古今六帖	備考
あかなくにまだきも月の	23	31	56	49	伊勢八二	古今八八四	三三〇五	
あかねども岩にぞかふる				補々17	伊勢七八			
あきかけていひしながらも				補3	伊勢九六			
秋の野(夜)の(に)笹わけし朝の	16	26	51	15	伊勢三五	古今六三三	(三三四三五 三三八三)	
秋の夜は春日わするる			33	37	伊勢九四		三三七二一	
秋萩を色どる風は吹きぬとも	5	7	12	(補々2 補々5)	大和一六〇	後撰三三四	三三二九四	
秋萩を色どる風は吹きぬれば			11	補々4	大和一六〇	後撰三三三	三三二八六	
朝ごほりとくる間もなき				補々21				拾遺七三九(能宣) ただし前歌が業平
浅みこそ袖はひつらめ	9	14	26	44	伊勢一〇七	古今六八八	三三九三一	
芦の屋の灘のしほやき				27	伊勢八七			
あだなりと名にこそたてれ		2	2	21	伊勢一七	古今六三二		

あふなあふなおもひはすべし																	
あまぐものよそにも人の																	
あやめかり君は沼にぞ																	
伊勢の海に遊ぶあまとも																	
いづこまでおくりはしつと																	
いでていなばかぎりなるべみ																	
いでていに(こ)し(くる)あとだにいまだ																	
いでてゆく君をいはふと																	
いとあはれなくぞきこゆる																	
いとひては(いでていなば)誰(何)かわかれの																	
岩根ふみかさなる山は																	
いへばえにいはねば胸に																	
いほり多きしでのたをさは																	
今ぞ知る苦しきものと																	
今までに忘れぬ人は																	
うゑ(つ)しうへは秋なき時や																	
おきなさび人なとがめそ																	
おきもせずねもせで夜を																	
8	3	17	26				22			21			14				
8	6	51	40				49			50			19		27		
7	6	76	65	21			74	43	29	75	42			9	52	16	
55	補々28	補1	54	6	補々11	補々27	補々19	32		58	26	33	7	補々3	19	63	
伊勢二	伊勢二四	伊勢五一（大和一六三）	伊勢八六	伊勢四八	伊勢四三	伊勢三四	伊勢七四	伊勢四〇	伊勢三九	伊勢四四	伊勢三九	伊勢四〇		伊勢五三（大和一六四）	伊勢一九	伊勢九三	
古今六一六	後撰一〇七七	古今二六八		古今九六九									後撰八九二		古今七八四		
三三四二九（三三三二五）	三三三五六（三四一五三）	三三四五七五	三三七六三	三三一五〇		三三九五〇		三三三一〇四		三三三一〇三				三三四八五四		三三九六〇	
		後撰・六帖、作者は行平					拾遺九六九（坂上郎女）					後撰作者、枇杷左大臣定家本系の勢語にはなし。					

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

おほかたは月をもめでじ	24	11	25		29			19		18	15	41	43	39		34	
おほぬさと名にこそたてれ	30	16	15	1	39	44	32	24		36	52	56	20	43			
おほぬさのひくてあまたに	55	36	35	1	64	68	57	49		61	77	80	45	67	17		
大原やをしほの山も	36	18	17	35	8	補	52	4	補々20	45	61	23	47	41	5	40	
おほろけのあまやはかづく（うけるかはべの）	伊勢八八	伊勢四七	伊勢七六	伊勢七六		伊勢八五	伊勢八四	伊勢六九		伊勢一〇七	伊勢一	伊勢九	伊勢八二	伊勢六八	伊勢六九	伊勢六七	
おほゐ河うかべるふねの（うかぶうぶねの）	古今八七九	古今七〇七	古今八七一	大和一六二	後撰八九三	後撰一三三	古今九〇〇	古今六四六	後撰一〇八三	古今七〇五		古今四一〇	古今四一八				
おもへども身をしわけねば	三二二七		三七九三		三七二二	三四九七	三六〇〇	三八八九		三三五二	三四一五五	三四六五〇	三〇五七		三七七五		
老いぬればさらぬわかれの					後撰の作者、伊勢				拾遺七二八、業平								
かからでもありにしものを										後撰の作者、行平							
かきくらす心のやみに																	
かぎりなき思ひのつなの																	
かずかずにおもひおもはず																	
かすがのの若紫の																	
かち人のわたれどぬれぬ																	
からころもきつつなれにし																	
かりくらしたなばたつめに																	
かりなきて（かぎりなき）菊の花咲く																	
きのふけふくものたちまひ																	

きみやこしわれや行きけむ		23	48	3	伊勢六九	古今六四五	三二八八八	
くれなゐにうつるやいつも				67	伊勢一八			
くれぬとてねてゆくべくも	38	42		補11		後撰六二九		
けふこずはあすはゆきとぞ	2	3	3	22	伊勢一七	古今六三	三五〇五三	
こひわびぬあまのかるもに				補々23	伊勢五七			
これやこのあまのはごろも				13	伊勢一六			
さく花の下にかくるる			32	64	伊勢一〇一			
桜花散りかひくもれ				2	伊勢九七	古今三四九		
しなのなるあさまのたけに				補々22	伊勢八			
しほがまにいつかきにけむ			41	66	伊勢八一			
しらゆきのやへふりしける				補々26		古今九〇三	三三三五三	古今、作者むねやな、前歌業平
知る知らずなにかあやなく			24	補5	伊勢九九	古今四七七	三三三八七	
すみわびぬ今はかぎりの(と)	27	53	78	9	伊勢五九	後撰五九	三一八六〇	
そむくとて雲にはのらぬ	33	46	71	14	伊勢一〇三		三三三〇九	
たのまれず(ぬ)うき世の中を		48	73	10		後撰一一三六	三三三六二	
たのめつつあはで年ふる	46	10		(補々7 補13)		(古今六一四 後撰九六八)	三三四一三	古今躬恒、後撰仲平
ちはやぶる神代もきかず	6	9	18	1	伊勢一〇六	古今二九四		
ちりぬればこふれどしるし			8	補々1		古今六四		

月やあらぬ春や昔の	12	45					37	32	36			42	40		35	4	10
つひにゆく道とはかねて(ききし)	17	58			13		41	45	37		11	57	54		54	5	25
つれづれといとど心ちの	37	82	28	25		69	66	70	62	38		81	79	20	59	5	50
つれづれのながめにまさる	34	68	補々13	43	補々29	11	24	12	補9	補々18	補々8	25	31	補々10	29	65	16
てる月をまさ木の綱に	伊勢四	(伊勢二二五 大和一六五)	大和一六五	伊勢一〇七		伊勢一六	伊勢九	伊勢一六	伊勢二三	大和一六〇		伊勢九	伊勢六六	伊勢四三	伊勢八七	伊勢八〇	伊勢一〇三
手を折りてへにける年を	古今七四七	古今八六一		古今六一七	後撰一〇八二				古今九七一		後撰九六九	古今四一一	後撰二四五		古今九二三	古今一三三	古今六四四
時知らぬ山は富士のね	三三七五〇			(三三三六 三三九三〇)	三三三三		三五六四					三三〇四	三三六六二		三五六七		三三八八二
年だにもとをとてよつは					後撰・六帖、作者河原左大臣						後撰作者、伊勢						
年をへてすみこし里を																	
ながるとも何とか見え(知ら)む																	
なつのよの星か——→晴るる夜の星か																	
なつ虫のしるしるまどふ																	
なにしおはばいざ言とはむ																	
なにはめ(え・づ)に(を)けふ(けさ)こそみつの																	
なのみたつしでのたをさは																	
ぬきみだる人こそあるらし																	
ぬれつつ(ぬれ)ぞしひて折りつる																	
ねぬる夜の夢をはかなみ																	

野とならばうづらとなりて	1	4	4	46	伊勢八二	古今五三	三五〇五六
はるる夜の星か河辺の	31	33	58	53	伊勢八四	古今九〇一	三五三三九
人知れぬわが通ひ路の			10	59	伊勢四五	後撰二五二	三四八五四
ひとせにひとたびきます	44	28	53	20	伊勢一九	古今七八五	
ほととぎすながなく里の			44		伊勢七七		三三三二九
まくらとて草引き結ぶ			30		伊勢四六		三九一三
見ずもあらず見もせぬ人の	34	29	54	57	伊勢四一	古今八六七	三四三四七
みちのくのしのぶもぢずり							
見もみずも誰と知りてか			14	38	伊勢一〇		三五三三三
みよしののたのむの雁も(は)			23		大和一六六		
武蔵野の若紫→春日野の若紫	7	12	22	62	伊勢一	古今七三四	三四一五八
紫の色こき時は			4		伊勢九九 大和一六六	古今四七六	
めかるともおもほえなくに			31	56	伊勢八三		三三三七二 三四〇八八
山のみなうつりてけふに			19		伊勢四三	古今一四七	
ゆきかへりそらめのみして			9				
ゆくほたる雲の上まで	20	22	47	42	伊勢五	古今六三三	
世の中にさらぬ別れの	28	47	72	30	伊勢八七		
世の中にたえて桜の		38	63	補10	伊勢一三	古今九七二	三三〇五一

世の中を(は)いとひがてらに			39	補々16		後撰二三四		後撰、よみ人しらず
よひのまにはやなぐさめよ	13	18		補6		後撰 七五七		後撰作者、枇杷左大臣
よるべなみ身をこそ遠く				補々25		古今 六一九		古今、よみ人しらず 前歌は業平
わが方によるとなくなる			15	39	伊勢一〇		三五三四	
わがか(や)どにちひろあるかげ(たけ)を			13	補々6	伊勢 七九			
わがよをばけふかあすかと				28	伊勢 八七			
わかるともおもほえなくに								
↓めかるともおもほえなくに								
わくらばにとふ人あらば		55		補12		古今 九六二	三六四七	古今・六帖、作者行平
わするなよほどは雲井に				補々31	伊勢 二			拾遺集四七〇 橘忠基
わすれ草おふる野辺とは	27			補々12	(伊勢一〇〇 大和一六三)			
わすれては(つつ)夢かとぞ思ふ	30	35	60	50	伊勢 八三	古今 九七〇	三五九二	
わたつみとあれにしとこを				補7		後撰 七五八	三三四三	後撰・六帖、作者伊勢
をりとらばをしげにもあるか				補々2		古今 六五		(猿丸集・是則集に有 古今、よみ人しらず)

(二) 陽明文庫本業平集——歌仙家集本系統——

業平集

1 古今 世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

2 古今 けふこずはあすは雪とぞ降なまし消ずは有と花とみましや

3 古今 うつしうへば秋なき時やさかざらん花こそちらめねさへかれめや

三月晦日。雨中に折藤花

4 古今 ぬれつゝぞしひておりつる藤の花春はけふをしかぎりと思へば

5 後撰 秋はぎを色どる風ははやくとも心は同かれふかじ草ばならねど同ば

6 古今 ちはやぶる神代もきかず龍田川からくれなゐに水くゝるとは

7 古今 見ずもあらずみもせぬ人の恋しくはあやなくけふや詠くらさん

8 古今 おきもせずねもせで夜るをあかしては春の物とて詠くらしつ

9 古今 あさみこそ袖はひつらめ涙川身さへながるときかばたのまん

10 古今 ねぬる夜の夢をはかなみまどろめばいやはかなくも成まさるかな

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com